

基本情報技術者

1. はじめに

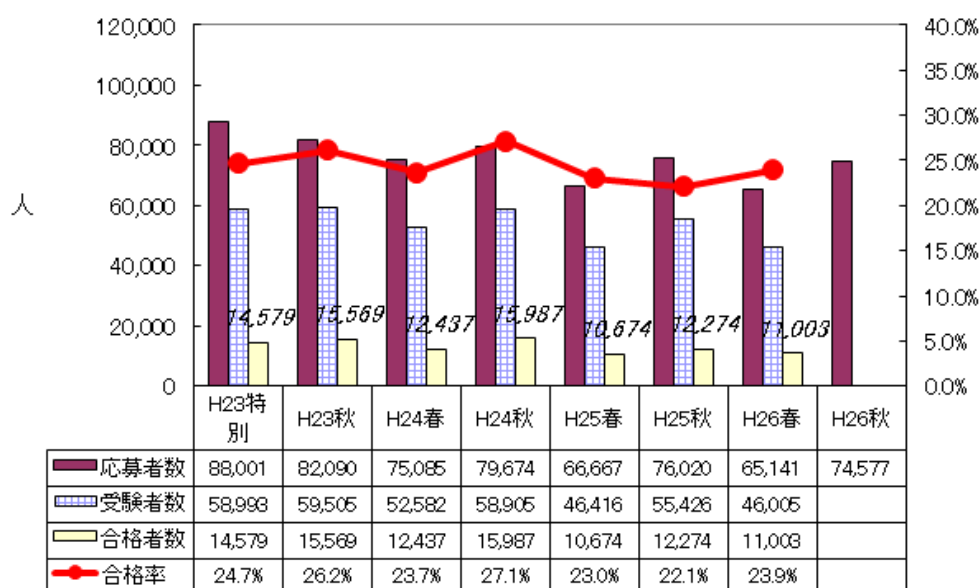
1.1 総評

午前試験では、前半のテクノロジ系で、計算や事例系の問題が前回より多く出題され、さらに聞き方を変えた問題などもあったため、やや難しめでした。

午後試験では、問 8 のアルゴリズム(必須問題)の扱ったテーマが難解であり、前半のプログラムの穴埋めで時間を使い過ぎてしまう危険性の高い問題でした。後半のトレース主体の設問の方が内容を理解しやすかったので、早めに設問 2 に取り掛かれたかが正答率に影響したでしょう。セキュリティ及び選択問題(問 2～7)、プログラム言語(問 9～13)に関しては、標準的な問題の比率が高かったようです。

総合すると、午前試験は標準的～やや難であり、午後試験は全体としては標準的な難易度ですが、やや難易度の高かった必須問題のアルゴリズムの出来が重要であったと思われます。

1.2 受験者数の推移



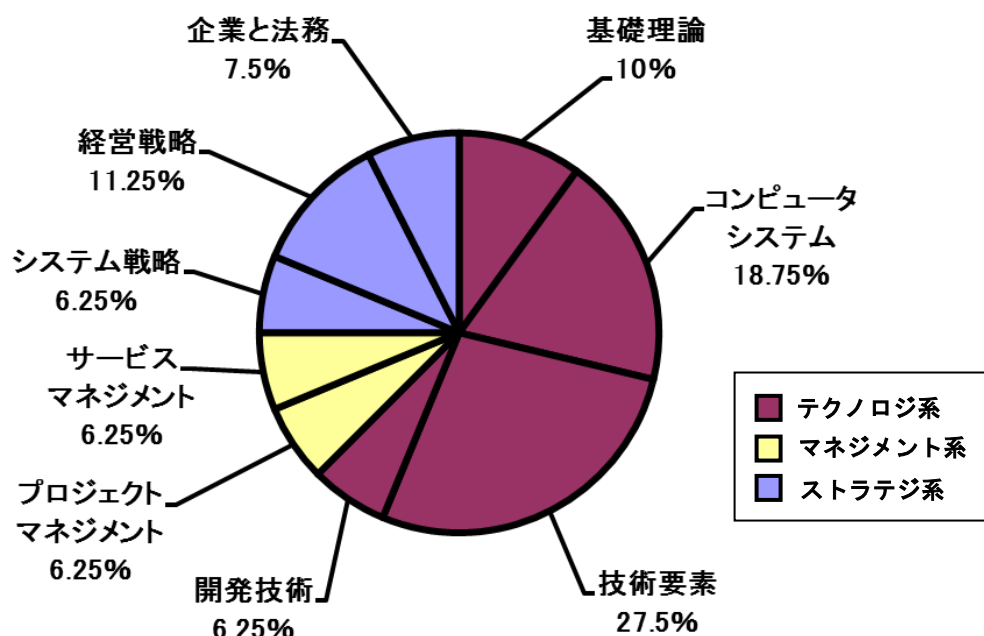
2. 午前問題の分析

2.1 問題テーマの特徴

午前試験の問題は、試験センターから公表されているシラバスに沿って広い範囲から出題されています。主な分野ごとの出題数は、テクノロジー系が 50 問，マネジメント系が 10 問，ストラテジ系が 20 問となっています。

午前試験の大分類別出題数及び出題率については次の通りです。セキュリティ強化にともない技術要素の出題数が増えた前回の試験と比較すると 1 問程度の増減はありましたが、大きな変化はみられず、今後もこの比率で出題されると考えてよいでしょう。

大分類別出題数	出題率	出題数
基礎理論	10 %	8 問
コンピュータシステム	18.75 %	15 問
技術要素	27.5 %	22 問
開発技術	6.25 %	5 問
プロジェクトマネジメント	6.25 %	5 問
サービスマネジメント	6.25 %	5 問
システム戦略	6.25 %	5 問
経営戦略	11.25 %	9 問
企業と法務	7.5 %	6 問



大分類別で出題数が多い「技術要素」の主要分野の出題数は、

ネットワーク：5 問，データベース：5 問，情報セキュリティ：10 問

となっており、前回から引き続き情報セキュリティが多分野より多く出題されています。

この数は“マネジメント系”全体の問題数と同じ 10 問ですので、情報セキュリティが午前試験の重要分野であることがわかります。

問題形式別に見ると、計算・事例問題(「計算を含む問題」や「事例が提示される問題」)の割合は全体の 30%強、残りが用語・正誤問題(「用語を選ぶ問題」や「適切な文章を選択する問題」)でした。特にテクノロジ系で計算・事例問題の出題数が前回より増加し、逆にストラテジ系では前回より減少しました。ただし、前回の午前試験がむしろ例年と異なる傾向であったため、今回は通常の形に戻ったと考えた方がよいでしょう。

同区分の FE の過去問題からの流用は 40 問強あり、半数以上を占めています。テクノロジ系ではやや古めの問題が多く流用される傾向が見られましたが、特に今回はマネジメント・ストラテジ系で 3 回前の 25 年春からの流用が多かったのが特徴的でした。

全体としては、頻出用語だけでなく、フリップフロップや NTP、CAD などの知識も問われており、各分野の幅広い知識が求められていました。

2.2 難易度の特徴

テクノロジ系の初出題のテーマとしては、

コピーレフト、ハッシュインデックス、ポートスキャナ、HTTPS、
リスクアセスメント、オーバーライド

などが出題されました。特にセキュリティは問題数も多く、今後も新用語が出題されやすいと思われますので、他区分に出題された新用語なども確認しておくといよいでしょう。また、テクノロジ系では前回よりも計算・事例問題が多かったのですが、その内容は(過去問題からの流用も含めて)手間のかかる問題などが多く、予想以上に解くのに時間がかかったと思われます。後半の技術要素では、初出題テーマや、既出テーマだが聞き方を変えた問題などが目立ち、やや難しい印象がありました。

マネジメント系では、サービスマネジメントに単純な知識を問うものではなく考えさせられる問題が目立ちましたが、それ以外は頻出テーマも多く、全体としては標準的な難易度でした。

ストラテジ系の初出題のテーマとしては、

スマートグリッド、CSR 調達、ワークシェアリング、準委任契約
などが出題されました。また、前半は定番テーマも多くやや易しめでしたが、計算・事例問題が後半に集中していたこともあり、後半が標準的～やや難しめでした。

午前全体では、過去問題の流用が例年どおり多かったのですが、手間のかかる問題などが前回より多かったため、難易度は標準的～やや難しめであるといえるでしょう。

ただし、テキストなどを用いて各分野の幅広い知識を身に付け、過去問題などを用いて演習を積んだ方であれば、時間内に合格ラインに到達できるだけの正答数を得ることができたと思われます。

2.3 問題テーマ難易度一覧表

問	テーマ	難易度
1	基数変換	B
2	ハッシュ法	C
3	ビットパターンの個数	B
4	逆ポーランド記法	B
5	スタック	C
6	2分探索	A
7	再帰関数	B
8	XML	A
9	クロック周波数と実行可能命令数	B
10	内部割込み	A
11	キャッシュメモリ	B
12	ROM と RAM	B
13	ホットサイト	B
14	稼働率	B
15	初期故障期間の対策	B
16	LRU 方式	A
17	マルチタスク (排他制御)	B
18	スプーリング	B
19	ファイルシステムの絶対パス指定	B
20	コピーレフト	C
21	論理回路	C
22	順序回路	B
23	電力量の計算	C
24	ファイルを用いた集計	C
25	画像データ量	B
26	スキーマ	B
27	ハッシュインデックス	C
28	正規化の目的	A
29	データベースの再編成	B
30	同時実行制御 (ロック)	B
31	音声データのバッファリング時間	B
32	LAN 間接続機器	A
33	プロトコル (FTP)	C
34	PC に割り振れない IP アドレス	B
35	プロトコル (NTP)	B
36	ソーシャルエンジニアリング	A
37	デジタル署名	B
38	情報漏えい対策	B
39	リスクアセスメント	B
40	各サーバの設置場所	B

41	WAF	B
42	パターンマッチング	B
43	HTTPS	B
44	ディレクトリトラバーサル攻撃	B
45	ポートスキャナ	C
46	決定表	A
47	オーバライド	C
48	ブラックボックステスト	B
49	退行テスト	A
50	リバースエンジニアリング	B
51	WBS	A
52	アローダイアグラム	B
53	ファンクションポイント法	B
54	必要な要員数の算出	B
55	リスクマネジメント	B
56	資産管理	B
57	システムの運用	B
58	システム障害発生 の 認知	B
59	システム監査人の役割	A
60	ソフトウェア資産管理の監査	B
61	全体最適化の作業	B
62	BP0	B
63	スマートグリッド	C
64	BYOD	A
65	非機能要件	B
66	要件定義プロセス	B
67	CSR 調達	C
68	コアコンピタンス	A
69	バリューチェーン分析	B
70	プロダクトライフサイクル	A
71	バランススコアカード	A
72	コンカレントエンジニアリング	B
73	CAD	B
74	機械が能力不足となる工程	B
75	ワークシェアリング	C
76	ABC 分析	B
77	ゲーム理論	C
78	払出し単価計算(先入先出法)	B
79	著作権法	B
80	準委任契約	C

注) 難易度は3段階評価で、Cが難、Aが易を意味する。

3. 午後問題の分析

3.1 問題テーマの特徴

●必須問題(問1：情報セキュリティ)

“ネットワークセキュリティ”をテーマにして、パケットフィルタリング及びSSLの公開鍵認証方式が主論点となる問題であり、前回のリスクアセスメントと比較すると、技術系の内容をテーマとした出題でした。今後も、セキュリティ技術及びセキュリティマネジメントのどちらにも対応できる力を養っておくべきでしょう。

●選択問題(問2～7：6問中4問選択)

今回の選択問題の出題分野は次のとおりです。問2～4では“ネットワーク”が出題されませんでした。

問2：ハードウェア

問3：ソフトウェア

問4：データベース

問5：ソフトウェア設計

問6：サービスマネジメント

問7：システム戦略

問2(ハードウェア)はJKフリップフロップの問題です。論理回路の問題ですが、論理演算は扱わず、二つの入力値と出力値の組合せから出力値の変化を真理値表を用いて考える問題でした。フリップフロップに関する知識を要する問題ではなく、問題文から各設問内容を考えていくタイプの問題です。

問3(ソフトウェア)は、マルチプログラミングの問題であり、過去の本試験でも類似問題が出題されているテーマです。設問1でタスク(プロセス)の状態遷移図のトレースが扱われたので、この状態遷移に関する基本的な知識が必要でした。

問4(データベース)は、関係データベースの表を用いた検索及びSQL文を中心とした定番の内容でしたが、設問4で“インデックス”に関する問題が初めて出題されました。午前試験にも出題されていることを考えると、今後要注意なテーマといえそうです。

問5(ソフトウェア設計)は、共通ライブラリのオブジェクト指向設計の問題でした。設問1は定番のクラス図の穴埋めでしたが、設問2ではクラス設計の改善を題材にし、具体的な処理内容の変更まで想定した設計を行っています。Java以外のプログラム言語を選択した受験者は聞いたことがないであろうイテレータ(Iterator)やインタフェース、オーバーライドなどの用語が使用されており、今までより深い内容が問われています。ソフトウェア設計では、テスト技法やシステム統合など新傾向での出題が続いており、今後は要注意といえるかもしれません。

問6(マネジメント)は、サービスマネジメントから出題され、そのテーマは“サービスデスクの問合せ対応”でした。プロジェクトマネジメントの出題が多い分野ですが、サービスマネジメントの対策として基本知識は押さえておきましょう。なお、複数の表が

提示され、計算が要求される問題構成という点では、従来と同様であるといえます。

問 7(ストラテジ)は、受発注システムを扱った問題でした。受注に伴う在庫の引当てや発注、入庫などの処理から在庫数を計算し、それを分析することでシステムの問題点を把握・改修するといった内容です。

●必須問題(問 8：データ構造及びアルゴリズム)

今回のアルゴリズムは、二つの文字列の差異を測る編集距離を、エディットグラフによる最短距離取得問題の考え方で求めるプログラムが出題されました。設問 1 でプログラム中の穴埋め、設問 2 ではエディットグラフを用いたトレースが問われています。扱っているテーマ自体が難解なので、全体を理解しようとせずに、エディットグラフの説明に集中して各設問を攻略することが必要な問題でした。

●ソフトウェア開発(問 9～13：5 問中 1 問選択)

・C

文字列比較とビット処理を含めた、突合せ処理が問われました。情報処理技術者試験においては基本ともいえる事務処理アルゴリズムの一つですが、C 言語受験者の中には突合せ処理やビット処理を得意としない方も少なくありませんから、得手不得手が分かれた問題かも知れません。

・COBOL

指定された商品の月ごとの売上金額を集計し、2 年分の売上グラフを作成するプログラムです。設問 1 ではプログラムの穴埋め、設問 2 では Z チャートのグラフを作成するようにプログラムを変更する内容が問われています。各設問の主論点は集計処理ですから、取り組み易い内容であったといえます。

・Java

期間(時間間隔)を表すクラス及びそのテスト用のプログラムを扱った問題です。設問 1 ではプログラムの穴埋め、設問 2 では可変インスタンスによって発生した問題の解決が問われました。設問 2 の問題文がやや長いので、設問 1 と割り振る時間のバランスも重要でした。

・アセンブラ

前半はバブルソートのプログラム、後半はそれを利用して複数個の数字列を昇順に並べ替えるプログラムです。設問 1、2 では前半のプログラムの穴埋め及びトレースを、設問 3 では後半のプログラムの穴埋めを答える内容です。後半のプログラムでは、数字列と 2 進数 10 進数の間の変換処理がポイントになっています。

・表計算

入力された乗車駅と降車駅から乗車距離と運賃を求めて表示するワークシートに関する問題です。設問 1 で関数の穴埋め、設問 2 ではマクロの穴埋めが問われています。ワークシートで扱われた関数の種類は多くありませんが、前回に引き続き、数値を扱う切上げ関数などが使用されているのが特徴的です。

3.2 難易度の特徴

●必須問題(問1：情報セキュリティ)

パケットフィルタリングは、21年春以降しばらく出題がありませんでした。ですが、セキュリティの重要テーマの一つですので、必ず学習する内容です。この類似問題を演習したことがあれば、十分に対応できたでしょう。設問1でやや戸惑った方もいるかも知れませんが、設問4が平易であったため、難易度は標準的です。

●選択問題(問2～7：6問中4問選択)

各問題の内容自体はそれほど難解なものはありませんが、選択した問題の組合せによっては、時間的難易度が高くなってしまったと思われます。各問題の難易度の特徴を挙げておきます。

・問2(ハードウェア)

JK フリップフロップの事前知識はそれほど必要ではなく、問題文と真理値表から設問1, 2は解けるでしょう。ただし、設問3では、問題文の例を参考にして、三つの構成案を考え出すパズル的な問題になっていたため、時間がかかった方も少なくないと思われます。前半の平易さを考慮すると、難易度は標準的です。

・問3(ソフトウェア)

マルチプログラミングの問題は、23年春にも出題実績がありますので、過去問題の演習経験があれば解き易かったでしょう。設問1の「タスクの状態遷移」は午前対策の知識で十分対応可能です。演習経験の影響はあると考えますが、難易度は標準的といえます。

・問4(データベース)

設問4でインデックスが論点になりましたが、書籍名から検索する手順を考えれば、正解を導き出せたでしょう。空欄数が少ないので、ミスが大きく得点に影響してしまう問題ではありましたが、各設問は解き易いものでしたので、難易度は平易です。

・問5(ソフトウェア設計)

今回の選択問題の中では最も難易度が高かった問題です。テーマこそオブジェクト指向という定番ではありましたが、設問2で“インタフェース”や“オーバーライド”といった用語が登場したため、プログラム言語にJavaを選択していない受験者には厳しい内容です。選択言語により、後半の正答率に差が出たと思われます。

・問6(マネジメント系)

複数の表の内容から、各設問で必ず計算が要求されるため、時間的難易度は高めです。しかし、難しい計算が強いられるわけではありませんでしたので、手間と時間を他の問題より少し多めにかければ、解答できる内容です。

・問7(ストラテジ系)

受注時の在庫引当てや入庫による在庫数量の変化を丁寧に計算していけば、条件に従って発注が必要か、引当ては可能か、といったことが判断できます。問題文は長め

ですが、比較的解き易い問題でしょう。

●必須問題(問8：データ構造及びアルゴリズム)

今回の問題は、扱っているテーマ自体が難解な問題でした。そのため、問題文の冒頭にある編集距離をエディットグラフでどうして求められるのか、といったことを考え出すと時間を無駄に使ってしまいます。このような問題では、全体の理解は早めにあきらめ、プログラムの内容(今回は、エディットグラフの最短距離の求め方)にポイントを絞ることが大切です。

また、設問1のプログラムでエディットグラフを2次元配列にして扱うのですが、その例が掲載されていないためイメージしづらく、プログラムの穴埋めがやや難しいため、ここで時間を使い過ぎた受験者も多かったのではないのでしょうか。むしろ設問2のエディットグラフのトレースの方が理解しやすいため、早めに設問2を解き始めていれば、ある程度の正答率を確保でき、設問1のヒントも得ることができたでしょう。

難しい空欄を飛ばして要領よく解けた方ならば得点が取れますが、前から順番に一つひとつ解こうとした方は、取れるべき点を取れなかったかもしれません。

●ソフトウェア開発(問9～13：5問中1問選択)

・C

今回出題されたプログラムのアルゴリズム自体はそれほど難しくなく、6つの空欄のうち5つがループや分岐の条件を問うものでした。このため、提示されたデータの形式や関数の説明をきちんとイメージした上で、関数や論理演算子を組み合わせて「どのように条件を指定すればよいか」を論理的に考えれば決して難しくありません。ただし、ビットマスクと論理演算を組み合わせたマスク処理を用いた処理をマスターしていないと苦戦したかも知れません。

・COBOL

グラフを作成するプログラムですから難しそうに見えますが、空欄の対象となるのは主に集計処理でしたので、見た目ほど難しくはありません。後半のグラフでは、Zチャートに必要な売上累計、過去1年間の売上合計を、どのタイミングでどのように求めればいいのかを把握できれば、行うべき処理が見えてくるでしょう。難易度は易しめといえます。

・Java

アルゴリズムはごく平易ですが、文法知識がしっかりしていないと正解できない空欄が複数あります。長文の設計仕様を根気よく読み解く力も求められ、アルゴリズムやクラスの拡張(継承)だけ重点的に学習してきた人は思わぬ形で足をすくわれかねません。ただし、最初の空欄三つが埋め易いため、難易度は標準的～やや難といえるでしょう。

・アセンブラ

前半のプログラムは、アルゴリズムで学習する基本アルゴリズムの一つであるバブ

ルソートであり、設問 1 の空欄では各ループの終了条件や継続条件が問われ、設問 2 はバブルソートのトレースでした。したがって、バブルソートの知識があれば解き易かったでしょう。一方、後半のプログラムは長いですが、2 進数 10 進数に変換された数字列を元に戻す部分に空欄がありますから、その処理に集中して考えれば時間内に解答を導けたでしょう。難易度は標準的です。

・表計算

最近の傾向として、以前より問題文のボリュームが減っています。今回も 7 ページですから、前のように時間切れで後半の設問を解答できない、というようなことはないでしょう。設問 1 の関数の穴埋めは、あまり複雑な関数を使用されていませんので、難易度は標準的といえます。設問 2 のマクロの最後の二つの空欄の組合せを答える問題に関しては、自分でいくつか例を作って確認する必要があったのでやや難しかったです。

3.3 問題テーマ難易度一覧表

問	分野	テーマ	難易度
1	情報セキュリティ	ネットワークセキュリティ	B
2	ハードウェア	JK フリップフロップ	B
3	ソフトウェア	OS におけるプロセスのスケジューリング	B
4	データベース	書籍を管理する関係データベースの設計及び運用	A
5	ソフトウェア設計	共通ライブラリのオブジェクト指向設計	C
6	サービスマネジメント	サービスデスクにおける問合せ対応	B
7	システム戦略	受発注システムの改修	A
8	データ構造及びアルゴリズム	編集距離の算出	C
9	ソフトウェア開発(C)	利用者 ID の管理状況の確認	A
10	ソフトウェア開発(COBOL)	売上傾向の分析	A
11	ソフトウェア開発(Java)	可変オブジェクトとその問題点	B
12	ソフトウェア開発(アセンブラ)	バブルソート	B
13	ソフトウェア開発(表計算)	鉄道運賃の計算	B

注) 難易度は 3 段階評価で、C が難、A が易を意味する。また、網掛けは必須問題である。

4. 今後の対策

4.1 午前対策

(1) テキストによる基礎知識の徹底

午前試験で合格基準点を超える得点を確保するためには、標準的な難易度の問題を確実に正解することです。それには、まず基本情報技術者に必要な基礎知識をしっかりと身につけることです。

午前試験の問題に対応できる力をつけるためには、単なる用語の暗記ではなく、テキストなどを用いた体系的な学習を通して、動作原理、仕組み、定義をしっかりと理解し、さらに用途、問題点、解決策などの関連知識までインプットすることが必要です。このとき、テーマごとに知識をまとめながら覚えていく方法が効率的でしょう。

一つのテーマをテキストでインプットしたら、演習問題を解いて確認し(アウトプット)、間違えた問題テーマや未学習のテーマは再度テキストを見直し(再インプット)、知識を定着させましょう。テキスト学習が終了したら、あとは演習問題を数多くこなし、アウトプットと再インプットを繰り返して午前対策を完璧なものにすることが重要です。

学習サイクルは“インプット → アウトプット → 再インプット”

(2) 広い範囲の過去問題を使った答練

答練に用いる過去問題はなるべく広い範囲から選んだ方が効果的です。特にテクノロジ系では、近年の問題にやや古い年度の過去問題を織り交ぜ、さまざまな問題パターンに触れておくとういでしょう。さらに午前免除制度の修了試験などの過去問題も取り入れると効果的です。さまざまな問題パターンに触れることで、複数の方式や技術を組み合わせた新作問題にも対応できる知識定着と応用力の養成を実現することが可能になります。

マネジメント系及びストラテジ系では、21 年春以降の新試験の過去問題からの流用が多く見られますので、これらを中心に演習するとよいでしょう。

(3) 学習計画を立てて、それを守る

午前の学習範囲はとても広く、コンピュータの内部構造から戦略やマネジメントまで様々なジャンルの内容を学習しなければなりません。さらにアルゴリズムやプログラム言語などの午後対策と並行して進めなければなりませんから、まず学習計画をしっかりと立てておくべきです。学習開始時に、自分の使える時間を考えて無理のない実行可能な学習計画を立て、そのペースを守っていきましょう。これは、午後対策も同様です。

(4) 計算・事例問題の攻略

午前は計算・事例問題が必ず出題されます。また今回のように午後にも計算問題が多く出題される場合がありますので、事前に十分な演習経験を積んでおく必要があります。まずは、次の基礎演習から始めましょう。

- ・テーマごとに計算問題を過去問題から洗い出し、基礎的な問題から攻略する
具体的には、基本公式を覚え、演習では基本の計算パターンを習得してください。
次は応用演習です。

- ・さまざまな問題に触れることで、応用力、論理的思考を身につける
この過程で、単位を変換する計算や、早く正確に計算する練習を積んでおくことも重要です。

事例問題の攻略には、まず十分な基礎知識が必要です。定番の問題も利用して基礎を固めたら、応用問題にチャレンジして必要な知識の補足、解法パターン、どこに注意すべきか、といったところを習得しましょう。

4.2 午後対策

(1) アルゴリズム、データ構造の必須知識

午後対策は、必須問題であり、かつ、実力をつけるのに時間がかかる「アルゴリズム」の基礎学習から始めるべきです。最大値(最小値)・探索・整列・文字列照合・文字列置換といった基本アルゴリズムの処理の流れは必ず知っておかなければならないテーマです。また、基本アルゴリズムの学習の中で、初期化やループ条件、配列操作、文字列操作などの理解を深めておきましょう。

また、データ構造(リスト・スタック・キュー・木など)の“実装”や“操作”も非常に重要なテーマです。これらデータ構造の操作方法の知識の有無で解答時間や正答率に大きな影響が出ることがあります。これらの学習をおろそかにしないように注意しましょう。

(2) 擬似言語・プログラム言語・表計算

午後対策では、配点の高い擬似言語とプログラム言語の対策が重要となります。また、言語の問題を解くためにも、アルゴリズムの力が必須です。どちらも演習問題を数多くこなすことが最も有効な学習です。(1)の学習や言語の文法を学習した後、さまざまな応用問題を解き、さまざまなアルゴリズム(プログラム)に触れることが必要です。

最近のアルゴリズムの出題傾向を見ると、今後もトレースできる能力が重要であると予想されます。ただ問題を解くのではなく、いろいろなトレースを試してみることが効果的です。

表計算では、絶対参照/相対参照、代表的な関数をまず学習してください。特に、「表計算の機能・用語」に掲載されている関数の使用法をしっかり身につけましょう。次に、マクロで使用する「セル変数の相対表現」をマスターしてください。それらの学習後は直ちに応用演習に入り、問題集や過去問題を利用して、なるべく多くの演習を積みながら、計算式の組立て、関数の使用法、及びマクロに慣れることです。

また、マクロ対策として、基本アルゴリズムの最大値や探索などを含めた基本的な処理はしっかり理解しておくべきです。

(3) 情報セキュリティ

情報セキュリティは午前試験において 80 問中 10 問という高いウェイトを占める分野となりましたので、午前対策から最重要対策分野と位置付け、しっかり学習すべきでしょう。さらに、その出題内容から、単にセキュリティの用語を覚えるのではなく、その目的や用途、運用方法、設定上の注意点、メリットとデメリットなど関連知識まで含めて知識習得しておくことが望ましいといえます。

今回の午後試験の出題テーマはファイアウォールのパケットフィルタリングでしたから、まずは、出題実績が多いテーマである

暗号化技術、認証技術、ファイアウォール
といった技術面に主軸をおいて午後対策を行いましょう。また、ISMS の導入手順やセキュリティ基本方針・対策基準の内容などについても、理解しておきましょう。さらに、AP の過去問題の出題テーマなども参考にして、

セキュリティ攻撃及びセキュリティ対策

電子メールのドメイン認証や検疫ネットワークなどのセキュリティ対策
といったトレンドを押さえておくといよいでしょう。

(4) 選択問題対策も重要

選択問題 4 問で午後全体の配点の 5 割近く(合計 48 点)を占めますから、このブロックの得点力は非常に重要です。今回のようにアルゴリズムが難解だった場合などには、このブロックである程度得点できないと、合格が難しくなってしまいます。

まずは、午前対策をしっかりと行うことで、必要な基礎知識を確実なものにしましょう。これらの知識は、午後問題を解くうえでの「知識ベース」や「鍵」となります。

午前の学習ではなるべく苦手分野を作らないことが大切ですが、どうしても苦手に見える分野は、午後の選択から外してもよいでしょう。午後では苦手分野を無理に選択せずに、得意な分野に力を注ぐべきであると考えます。実際に、午後の問題を解いてみるのも、判断材料として有効でしょう。

次に、問題集や過去問題等で、その分野ごとの様々なテーマの問題を演習することです。それにより、長文問題の読解力、出題パターン、解法アプローチ、応用的な計算問題への対応力などを養うことが重要です。演習経験を積むことで、テーマに依存しない安定した得点力を身につけるようにしておきましょう。

なお、自分の選ぼうとした分野が出題されなかった場合や、難易度が高い分野があった場合に備えて、1 つ以上の予備の分野を対策に加えておくべきです。

(5) 時間配分戦略

本番で 100%の実力を発揮するためには、各問題を解くための時間配分の戦略が非常に重要となります。普段の演習においても、問題ごとに目標時間を設定し、時間内に解く練習をすべきです。さらに、試験直前期には、公開模試や過去問題などを用いて、試験時間 150 分内で問題を解く練習を積むことも必要です。シミュレーションによって、自

分の立てた時間配分がうまく機能するか、何か修正すべき点はないか、などの確認ができますから、試験前に自分に合った時間配分戦略をみつけておくべきでしょう。

・各問題の目標時間の例

情報セキュリティ(問 1)	: 15 分	
選択問題 : 4 問	: 各 15 分	
アルゴリズム(問 8)	: 30 分	
プログラム言語または表計算 : 30 分		合計 : 2 時間 15 分

(残り 15 分は見直し, または解けなかった問題に充てる)

FE

[MEMO]